

意見伺い

[平成20年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

琉球大学 観光産業科学部 産業経営学科

【意見伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 琉球大学
平成22年5月1日現在

(注) 1 「計画の区分」は認可時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

認可時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載いただき、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部
(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 〇〇学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

「意見伺い」の場合は、表題を修正してください。

目 次

1	調査対象大学等の概要等	1
2	授業科目の概要	4
3	施設・設備の整備状況, 経費	14
4	既設大学等の状況	15
5	教員組織の状況	17
6	留意事項に対する履行状況等	22
7	その他全般的事項	23
別紙	「設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」	29

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 琉球大学

(2) 大学名

琉球大学 観光産業科学部 産業経営学科

(3) 大学の位置

〒903-0213
沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
学長	(イマサハル) 岩政輝男 (平成19年6月1日)		
学部長	(ハシキツオ) 平敷徹男 (平成20年4月1日)	(ウシホキヨシ) 牛窪潔 (平成22年4月1日)	学部長定年退職による変更(22)
学科長等	(ウシホキヨシ) 牛窪潔 (平成19年4月1日)	(オスミタマキ) 大角玉樹 (平成22年4月1日)	学科長任期満了による変更(22)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成19年度に報告済の内容 → (19)
平成22年度に報告する内容 → (22)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて見え消し修正するとともに、上記と同様に「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成19年度開設の4年制の学科の場合(平成22年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
観光産業科学部 産業経営学科 (昼間主コース) (夜間主コース) 学士(経営学)	年 4 4	人 60 20	3年次 人 4	人 240 88	平成21年4月から産業経営学科(夜間主コース)の第3年次特別編入学定員の改訂により, 編入学定員が0人から4人に増加。(21)

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度				平均入学定員超過率	備考
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
A 入学定員	(-) 80	(-) 80	(4) 80	(4) 80	1.04倍	
志願者数	(-) 271	(-) 374	(15) 251	(15) 246		
受験者数	(-) 186	(-) 275	(15) 203	(15) 192		
合格者数	(-) 88	(-) 89	(4) 82	(4) 90		
B 入学者数	(-) 83	(-) 86	(4) 81	(3) 85		
入学定員超過率 B/A	(-) 1.03	(-) 1.07	(1.00) 1.01	(0.75) 1.06		

- (注) ・ ()内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については, 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入し, 平均入学定員超過率も同様の方法としてください。
 ・ 「平成22年度」には, 平成22年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成19~21年度」には, 確定した数値を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度				備考
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
1年次	[0] 83	[0] 89	[1] 82	[4] 85	一部の学生については, 転籍せず法文学部に所属する
2年次	/	[0] 81	[0] 89	[1] 85	
3年次	/	/	[0] 85	[0] 91	
4年次	/	/	/	[0] 77	
計	[0] 83	[0] 170	[1] 256	[5] 338	

- (注) ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 各年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成19年度	計 [0] 2	(累積)計 [0] 83	[0%] 2.4%
	うち平成19年度入学者 2人	うち平成19年度 83人	
	(主な退学理由) ・夜間主から昼間主へ移籍するため再受験(1人) ・家庭の事情(1人)		
平成20年度	計 [0] 2	(累積)計 [0] 169	[0%] 1.2%
	うち平成19年度入学者 2人	うち平成19年度 83人	
	うち平成20年度入学者 0人	うち平成20年度 86人	
	(主な退学理由) ・除籍(2人)		
平成21年度	計 [0]	(累積)計 [1] 250	[0%] 0%
	うち平成19年度入学者 0人	うち平成19年度 83人	
	うち平成20年度入学者 0人	うち平成20年度 86人	
	うち平成21年度入学者 0人	うち平成21年度 81人	
	(主な退学理由)		
平成22年度	計 [0] 1	(累積)計 [5] 335	[0%] 0.3%
	うち平成19年度入学者 0人	平成19年度 83人	
	うち平成20年度入学者 0人	平成20年度 86人	
	うち平成21年度入学者 1人	平成21年度 81人	
	うち平成22年度入学者 0人	平成22年度 85人	
	(主な退学理由) ・自分のやりたいことが琉大では学べないため(進路上的理由)		

(注)・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。

- ・留生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者(累積)で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他
- ・「平成22年度」については5月1日現在の状況を記入してください。
- ・「平成19～21年度」には、確定した数値を記入してください。

2 授業科目の概要

<観光産業科学部 産業経営学科>

(1) 授業科目表

授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備 考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養領域人文系科目										
人間と哲学の知	1・2・3・4前		2							
人間と世界	1・2・3・4前後		2							
思考の論理入門	1・2・3・4前		2							
西洋思想とインドの思想	1・2・3・4前		2							
環境の哲学	1・2・3・4前		2							
心の科学	1・2・3・4前後		2							
人間関係論	1・2・3・4前後		2							
心の実験室	1・2・3・4後		1							
科学技術の倫理	1・2・3・4後		1							
生き方の探究	1・2・3・4後		2							
人間と倫理	1・2・3・4後		2							
職業の倫理学	1・2・3・4前		2							
生命倫理	1・2・3・4後		2							
近代日本の社会と表現	1・2・3・4前		2							
日本古典文学の世界	1・2・3・4前		2							
小説の社会学	1・2・3・4後		2							
文学の楽しみ	1・2・3・4前		2							
ことばの構造と意味	1・2・3・4前		2							
日本語のしくみ	1・2・3・4前		2							
日本語のはたらき	1・2・3・4後		2							
中国古典文学の世界	1・2・3・4前		2							
20世紀の中国文学	1・2・3・4後		2							
歴史を掘る	1・2・3・4前後		2							
東洋の歴史と文化	1・2・3・4前後		2							
西洋の歴史と文化	1・2・3・4前後		2							
考古学入門	1・2・3・4前後		2							
音楽の世界	1・2・3・4前後		2							
美術の世界	1・2・3・4前後		2							
コーラルアンサンブルの楽しみ	1・2・3・4前後		2							
楽しく学ぶギター弾き語りⅠ	1・2・3・4前		2							
染織の世界	1・2・3・4前		2							
陶芸の世界	1・2・3・4前		2							
オーケストラの楽しみ	1・2・3・4後		2							
楽しく学ぶギター弾き語りⅡ	1・2・3・4後		2							
美術って何？	1・2・3・4後		2							
美術と社会	1・2・3・4後		2							
人文系特別講義Ⅰ	1・2・3・4前		2							

共通
教育
科目

授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養領域社会系科目										
法と社会	1・2・3・4前後		2							
憲法概論	1・2・3・4前後		2							
現代政治の課題	1・2・3・4前後		2							
日本の政治	1・2・3・4前		2							
現代アジア論	1・2・3・4前		2							
地域と生活	1・2・3・4前後		2							
現代社会のしくみ	1・2・3・4前後		2							
マスコミと社会	1・2・3・4前後		2							
人類文化の比較	1・2・3・4前後		2							
大学教育入門－社会編	1・2前		2							
消費者の自立	1・2前		2							
現代経済のしくみ	1・2・3・4前後		2							
経済の歴史	1・2・3・4前後		2							
現代経営のしくみ	1・2・3・4前後		2							
現代流通のしくみ	1・2・3・4前		2							
情報メディアと創造性	1・2・3・4後		2							
現代会計のしくみ	1・2・3・4後		2							
現代経済の諸問題	1・2・3・4前後		2							
教養領域自然系科目										
大気科学	1・2・3・4前		2							
地球科学	1・2・3・4前後		2							
海洋科学	1・2・3・4前後		2							
宇宙科学	1・2・3・4前後		2							
統計と社会	1・2・3・4前後		2							
数理の構造	1・2・3・4前後		2							
数の文化	1・2・3・4前後		2							
時間と空間	1・2・3・4前		2							
生活科学	1・2・3・4前		2							
生物の生活	1・2・3・4前後		2							
生命科学	1・2・3・4前後		2							
生活空間の計画	1・2・3・4前		2							
ランドスケープ論	1・2・3・4前後		2							
環境デザイン論	1・2・3・4前		2							
ヒトの健康科学	1・2・3・4前		2							
分子の世界	1・2・3・4後		2							
パースの世界	1・2・3・4後		2							
コンピュータ・グラフィックス	1・2・3・4後		2							
遺伝学入門	1・2・3・4後		2							
人間と物理学	1・2・3・4後		2							
教養領域健康運動系科目										
健康と運動の科学Ⅰ	1・2・3・4前後		1							
健康と運動の科学Ⅱ	1・2・3・4前後		2							
健康・運動科学演習	1・2・3・4前後		2							
健康・運動実技(バドミントン)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(テニス)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(バレーボール)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(バスケットボール)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(ゴルフ)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(ラート)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(卓球)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(琉球舞踊)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(空手)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(ニュースポーツ)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(ソフトボール)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(水泳)	1・2・3・4前		1							
健康・運動実技(ダイビング)	1・2・3・4前		1							
健康・運動実技(キャンプ)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(ハンドボール)	1・2・3・4前		1							
健康・運動実技(ウェイトトレーニング)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(エアロビクス)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(サッカー)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(キャンプ)	1・2・3・4前後		1							
健康・運動実技(特別)	1・2・3・4前		1							

共通
教育
科目

授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合・琉大特色科目										
脳の発達と人間	1・2・3・4前		2							
アメリカの文化と社会	1・2・3・4前後		2							
住まいの科学	1・2・3・4前		2							
環境の保全	1・2・3・4前		2							
環境問題	1・2・3・4前		2							
ヒトの科学と人間の医学	1・2・3・4前		2							
動物実験の基礎	1・2・3・4前		2							
遺伝子の話	1・2・3・4前		2							
死と哲学の知	1・2・3・4前		2							
科学と疑似科学	1・2・3・4前		2							
キャリア概論	1・2・3・4前		2							
高齢社会を生きる	1・2・3・4前		2							
ボランティア入門	2・3・4前		2							
頭脳を鍛える困基入門	1・2・3・4前		2							
大学間共同授業	1・2・3・4前		2							
倫理総合討論	3・4・5・6前		2							
地球環境と人間	1・2・3・4後		2							
先端情報工学概論	1・2・3・4後		2							
森の文化史	1・2・3・4後		2							
環境保全型農業	1・2・3・4後		2							
自由と民主主義の研究	1・2・3・4後		2							
人口と食糧	1・2・3・4後		2							
核の科学	1・2・3・4前		2							
沖縄の基地と戦跡Ⅰ	1・2・3・4前		2							
沖縄の基地と戦跡Ⅱ	1・2・3・4前		2							
琉球語入門Ⅰ	1・2・3・4前		2							
琉球の文学	1・2・3・4前		2							
沖縄の美術・工芸	1・2・3・4前		2							
地域の科学	1・2・3・4前		2							
近代沖縄の社会と表現	1・2・3・4後		2							
琉球の自然	1・2・3・4前		2							
琉球弧の自然誌	1・2・3・4前		2							
現代の国際関係	1・2・3・4前後		2							
沖縄の政治と社会	1・2・3・4前後		2							
沖縄の学力と教育	1・2・3・4後		2							
移民論	1・2・3・4前後		2							
三線と島唄	1・2後		2							
うちなーぐちあしび	1・2前		2							
亜熱帯ー西表の自然	1・2前		2							
琉球アジア研究入門	1・2・3・4前		2							
職業と人生	1・2・3・4後		2							
キャンパスエコライフ理論と実践	1・2・3・4後		2							
総合特別講義Ⅰ	1・2・3・4前後		2							
総合特別講義Ⅱ	1・2・3・4前後		2							
総合特別講義Ⅲ	1・2・3・4前後		2							
現代アメリカ論	3・4・5・6後		2							
女性学	3・4・5・6後		2							
地震と防災	3・4・5・6後		2							
環境影響評価概論	3・4・5・6後		2							
大学と産業の振興	1・2・3・4後		2							
女性と社会	1・2・3・4前		2							
ウチナーグチ入門(中級)	1・2・3・4後		2							
沖縄研究入門	1・2・3・4後		2							
台風ー自然と風土	1・2・3・4後		2							
琉球の自然保護	1・2・3・4後		2							
沖縄のサンゴ礁	1・2・3・4後		2							
琉球の地理	1・2・3・4前後		2							
異文化コミュニケーション	1・2・3・4後		2							
基幹領域情報関係科目										
情報科学演習	1・2・3・4前後		2							
日本語表現法入門	1・2・3・4前後		2							

共通
教育
科目

授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基幹領域外国語科目										
総合英語演習Ⅰ	1前		2							
総合英語演習Ⅱ	1・2・3・4後		2							
英語講読演習Ⅰ	1前		1							
英語講読演習Ⅱ	1・2・3・4後		1							
英語講読特演	1・2・3・4前後		2							
実用英語特演	1・2・3・4前後		2							
特別英語演習	1・2・3・4前後		2							
中級英会話演習	1・2・3・4前後		2							
上級英会話演習	2・3・4前		2							
TOEIC演習	2・3・4前後		2							
TOEFL演習	2・3・4前後		2							
英検準1級演習	2・3・4前		2							
目的別英語演習Ⅰ	2・3・4前後		2							
目的別英語演習Ⅱ	2・3・4前後		2							
基礎ドイツ語Ⅰ	1・2・3・4前		2							
基礎ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4後		2							
基礎ドイツ語Ⅲ	2・3・4前		2							
基礎ドイツ語講読	2・3・4後		2							
応用ドイツ語特演	2・3・4後		2							
ドイツ語特演	3・4後		2							
基礎フランス語Ⅰ	1・2・3・4前		2							
基礎フランス語Ⅱ	1・2・3・4後		2							
基礎フランス語Ⅲ	2・3・4前		2							
基礎フランス語講読	2・3・4後		2							
基礎フランス語会話	2・3・4前		2							
応用フランス語会話	2・3・4後		2							
フランスのことばと風物	2・3・4前		2							
基礎スペイン語Ⅰ	1・2・3・4前		2							
基礎スペイン語Ⅱ	1・2・3・4後		2							
基礎スペイン語Ⅲ	2・3・4前		2							
基礎スペイン語講読	2・3・4後		2							
基礎スペイン語会話	2・3・4前		2							
応用スペイン語会話	2・3・4後		2							
スペインのことばと風物	2・3・4後		2							
スペイン語特演	3・4前		2							
基礎ロシア語Ⅰ	1・2・3・4前		2							
基礎ロシア語Ⅱ	1・2・3・4後		2							
基礎中国語Ⅰ	1・2・3・4前		2							
基礎中国語Ⅱ	1・2・3・4後		2							
基礎中国語Ⅲ	2・3・4前		2							
中国語講読演習	3・4前		2							
初級中国語会話	2・3・4前		2							
基礎中国語講読	2・3・4後		2							
応用中国語演習	2・3・4後		2							
中国語特演	3・4後		2							
中国語のことばと風物	2・3・4後		2							
基礎朝鮮語Ⅰ	1・2・3・4前		2							
基礎朝鮮語Ⅱ	1・2・3・4後		2							
基礎朝鮮語Ⅲ	2・3・4前		2							
基礎朝鮮語講読	2・3・4後		2							
応用朝鮮語演習	2・3・4後		2							
基礎タイ語Ⅰ	1・2・3・4前		2							
基礎タイ語Ⅱ	1・2・3・4後		2							
基礎ヴェトナム語Ⅰ	1・2・3・4前		2							
基礎ヴェトナム語Ⅱ	1・2・3・4後		2							
基礎ヴェトナム語Ⅲ	2・3・4前		2							
基礎ラテン語Ⅰ	1・2・3・4前		2							
基礎ラテン語Ⅱ	1・2・3・4後		2							

共通教育科目

授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考	
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通 教育 科目	先修科目及び転換科目										
	微分積分学STI	1前		2							
	微分積分学STII	1後		2							
	微分積分学ADI	1前		2							
	微分積分学ADII	1後		2							
	線形代数学I	1前		2							
	線形代数学II	1後		2							
	線形代数学演習I	1前		2							
	線形代数学演習II	1後		2							
	統計学	2前		2							
	統計学I	1・2・3・4前		2							
	統計学II	1・2・3・4後		2							
	微分積分学入門I	1前		2							
	微分積分学入門II	1後		2							
	地球科学I	1前		2							
	地球科学II	1後		2							
	物理学I	1・2・3・4前		2							
	物理学II	1・2・3・4後		2							
	物理学入門I	1・2前		2							
	物理学入門II	1・2後		2							
	物理学実験	1・2・3・4前後		1							
	化学I	1・2・3・4前後		2							
	化学II	1・2・3・4前後		2							
	化学実験	1・2・3・4前後		1							
	化学入門I	1・2前		2							
	化学入門II	1・2後		2							
	生物学I	1・2前後		2							
	生物学II	1・2前後		2							
	生物学実験	1・2前後		1							
	図学	1前		2							
	日本語・日本語事情										
	日本語I	1・2・3・4前		2							
	日本語II	1・2・3・4後		2							
	日本語III	1・2・3・4前		2							
	日本語IV	1・2・3・4後		2							
	日本語V	1・2・3・4前		2							
	日本語VI	1・2・3・4後		2							
	日本事情I	1・2・3・4前		1							
	日本事情II	1・2・3・4後		1							
	小計(253科目)	—		476				—			

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	学科基礎科目	経営学概論	1通	4			2		1			
		マーケティング概論	1前	2			1 2 ±	±	1			教授へ昇格(21) 担当 知念 肇(教授) 平成20年7月 教員審査済 判定 可 (21) 教育課程の充実を図るため、 専任教員を採用(22) 担当 辻 洋右(講師) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 (22)
		簿記原理 I	1前	4			1	2 ±				教育課程の充実を図るため、 専任教員を採用(21) 担当 桑原和典(准教授) 平成20年7月 教員審査済 判定 可 (21)
		Introduction to Management	2・3・4前		2		4 3	±	1			教授へ昇格(21) 担当 大角玉樹(教授) 平成20年7月 教員審査済 判定 可 (21) 3科目のうち 2科目を選択必修
		Introduction to Marketing	2・3・4後	2			1 2 ±	1 2	1			教授へ昇格(21) 担当 知念 肇(教授) 平成20年7月 教員審査済 判定 可 (21) 教育課程の充実を図るため、 専任教員を採用(22) 担当 辻 洋右(講師) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 (22)
		Introduction to Accounting	2・3・4後	2			1	2 ±				教育課程の充実を図るため、 専任教員を採用(21) 担当 桑原和典(准教授) 平成20年7月 教員審査済 判定 可 (21)
		キャリア開発演習	2後	2		4 5 -4	2	2 ±			教授へ昇格(21) 担当 知念 肇(教授) 平成20年7月 教員審査済 判定 可 (21) 教育課程の充実を図るため、 専任教員を採用(21) 担当 桑原和典(准教授) 平成20年7月 教員審査済 判定 可 (21) 教授へ昇格(21) 担当 大角玉樹(教授) 平成20年7月 教員審査済 判定 可 (21) 教育課程の充実を図るため、 専任教員を採用(22) 担当 辻 洋右(講師) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 (22)	

授業科目の名称		配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	学科基礎科目	経営学演習Ⅱ	4通	4		6 7 5	3 3 4	3 2			教授へ昇格(21) 担当 知念 肇(教授) 平成20年7月 教員審査済 判定 可 (21) 教育課程の充実を図るため、 専任教員を採用(21) 担当 桑原和典(准教授) 平成20年7月 教員審査済 判定 可 (21) 教育課程の充実を図るため、 専任教員を採用(22) 担当 辻 洋右(講師) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 (22)	
	小計(9科目)	—	16	6		6 7 5	3 3 4	3 2	0	0		
専門科目	学科特色科目	経営情報論	2・3・4前		2		1	±				教授へ昇格(21) 担当 大角玉樹(教授) 平成20年7月 教員審査済 判定 可 (21)
		観光情報論	2・3・4後		2				1			教育課程の充実を図るため、 専任教員を採用(22) 担当 辻 洋右(講師) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 (22)
		観光経営論	2・3・4前		2				1			
		観光事業論	2・3・4後		2					1		
		サービス経営論	2・3・4後		2							
		マネジメント実践論	2・3・4前		2		1					
		マネジメント応用論	2・3・4前		2		1					
		人材開発育成論	2・3・4前		2							
		組織行動論	2・3・4後		2							
		国際マーケティング	2・3・4後		2		±			1		
		環境マーケティング	2・3・4前		2						1	
		まちづくり・地域興し論	2・3・4前		2						1	
		観光マーケティング論	3・4前		2				1			
		ホスピタリティ・マーケティング	3・4後		2				1			
消費者行動論	2・3・4前		2									
市場調査論	2・3・4後		2									
会計学原理Ⅰ	2・3・4前		2		1	1						
会計学原理Ⅱ	2・3・4後		2		1	1						
観光業界の経営分析	2・3・4後		2									
環境会計論	3・4前		2		1							
ファイナンス実践論	3・4後		2				1			教育課程の充実を図るため、 専任教員を採用(21) 担当 桑原和典(准教授) 平成20年7月 教員審査済 判定 可 (21)		
ファイナンス市場論基礎	4前		2				1			教育課程の充実を図るため、 専任教員を採用(21) 担当 桑原和典(准教授) 平成20年7月 教員審査済 判定 可 (21)		
ファイナンス市場論応用	4後		2				1			教育課程の充実を図るため、 専任教員を採用(21) 担当 桑原和典(准教授) 平成20年7月 教員審査済 判定 可 (21)		
小計(23科目)	—	0	46		3 4 3	3	2 ±	0	0			

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	学科選択科目	(経営学領域)											
		人的資源管理論基礎	2・3・4前		2				1				
		人的資源管理論応用	2・3・4後		2				1				
		経営管理技法論	2・3・4前		2		1						
		品質経営論	2・3・4後		2		1						
		経営戦略論	2・3・4前		2		1						
		競争戦略論	2・3・4後		2		1						
		経営組織論	3・4前		2		1	±					教授へ昇格(21) 担当 大角玉樹(教授) 平成20年7月 教員審査済 判定可(21)
		組織変革論	3・4後		2		1	±					教授へ昇格(21) 担当 大角玉樹(教授) 平成20年7月 教員審査済 判定可(21)
		経営統計学基礎	3・4前		2		1						
		応用経営統計学	3・4後		2		1						
		中小企業経営論	4前		2		1						
		中小企業発展論	4後		2		1						
		ベンチャー・ビジネス論	4前		2		1						
	(マーケティング領域)												
	流通原論	2・3・4前		2		1	±					教授へ昇格(21) 担当 知念肇(教授) 平成20年7月 教員審査済 判定可(21)	
	チャネル管理論	2・3・4後		2									
	ソーシャル・マーケティング	2・3・4前		2									
	サービス・マーケティング	2・3・4後		2									
	戦略的マーケティング	3・4後		2			+		1			教育課程の充実を図るため、 専任教員を採用(22) 担当 辻 洋右(講師) 平成22年1月 教員審査済 判定可(22)	
	広告論	3・4前		2			+		1			教育課程の充実を図るため、 専任教員を採用(22) 担当 辻 洋右(講師) 平成22年1月 教員審査済 判定可(22)	
	物流論	3・4前		2		1	±					教授へ昇格(21) 担当 知念肇(教授) 平成20年7月 教員審査済 判定可(21)	
	日本流通論	3・4前		2		1	±					教授へ昇格(21) 担当 知念肇(教授) 平成20年7月 教員審査済 判定可(21)	
	国際流通論	4後		2		1	±					教授へ昇格(21) 担当 知念肇(教授) 平成20年7月 教員審査済 判定可(21)	
	サプライチェーン・マネジメント	4後		2		1	±					教授へ昇格(21) 担当 知念肇(教授) 平成20年7月 教員審査済 判定可(21)	
	(会計学領域)												
簿記原理Ⅱ	1後・通		4		1								
簿記の応用と展開	2・3・4通		4										
証券市場論	2・3・4後		2										
管理会計	3前		2										
会計監査論	3後		2										
原価計算論基礎	3・4前		2										
原価計算論応用	3・4後		2										
現代会計論	3・4後		2					1					

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考						
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	貸与者 沖縄県、沖縄森林管理署 H22.4.1~H23.3.31(23) H21.4.1~H22.3.31						
	校舎敷地	534,590㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	534,590㎡ (0㎡)							
	運動場用地	93,280㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	93,280㎡ (0㎡)							
	小 計	627,870㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	627,870㎡ (0㎡)							
	そ の 他	7,767,199㎡ (6,981,452㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	7,767,199㎡ (6,981,452㎡)							
	合 計	8,445,469㎡ (6,981,452㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	8,445,469㎡ (6,981,452㎡)							
(2) 校 舎	専 用	157,117㎡ (157,117㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	157,117㎡ (157,117㎡)	大学全体						
	共 用											
(3) 教 室 等	講 義 室	92室	演 習 室	62室	実験実習室	532室	情報処理学習施設	10室 (補助職員 3人)	語学学習施設	5室 (補助職員 2人)	大学全体	
	新設学部等の名称	観光産業科学部			室 数			21 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	大学全体				
	観光産業科学部	951,476 [307,275] (951,476 [307,275])	17,130 [5,789] (17,130 [5,789])	10,000 [10,000] (10,000 [10,000])	4,596 (4,596)	5 (5)	0 (0)					
	計	951,476 [307,275] (951,476 [307,275])	17,130 [5,789] (17,130 [5,789])	10,000 [10,000] (10,000 [10,000])	4,596 (4,596)	5 (5)	0 (0)					
(6) 図 書 館	面 積	10,553㎡		閱 覧 座 席 数	796席		収 納 可 能 冊 数	1,007,750冊				
	面 積	5,473㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要 サッカー場、野球場、プール、その他								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費による			
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円				
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円					
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円					
学生納付金以外の維持方法の概要												

- (注) ・ 設置認可時の計画を認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
 ・ 複数のキャンパスに分かれている場合は、キャンパス毎に作成してください。
 ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(22)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、《別紙様式2》により、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	琉球大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
法文学部									
総合社会システム学科 (昼間主コース)	4	170	12	704	学士(法学、経済学、政治・国際関係、総合社会システム学)	1.03	平成9年度	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地	
総合社会システム学科 (夜間主コース)	4	30	4	128		1.10	平成9年度		
人間科学科	4	95	3	386	学士(人文社会)	1.07	平成9年度		
国際言語文化学科 (昼間主コース)	4	80	3	326	学士(人文学)	1.07	平成9年度		
国際言語文化学科 (夜間主コース)	4	30	4	128	学士(人文学)	1.04	平成9年度		
観光産業科学部									
観光科学科	4	60	—	240	学士(観光学)	1.01	平成17年度	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地	
産業経営学科 (昼間主コース)	4	60	—	240	学士(経営学)	1.00	平成19年度		
産業経営学科 (夜間主コース)	4	20	4	88	学士(経営学)	1.07	平成19年度		
教育学部									
学校教育教員養成課程	4	100	—	400	学士(教育学)	1.06	平成11年度	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地	
生涯教育課程	4	90	—	360	学士(教育学)	1.01	平成11年度		
理学部									
数理科学科	4	40	—	160	学士(理学)	1.01	平成8年度	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地	
物質地球科学科	4	65	—	260	学士(理学)	1.04	平成8年度		
海洋自然科学科	4	95	—	380	学士(理学)	1.02	平成8年度		
医学部									
医学科	6	107	5(2年次)	614	学士(医学)	1.00	昭和54年度	沖縄県中頭郡西原町字上原207番地	
保健学科	4	60	—	240	学士(保健学)	1.00	昭和56年度		
工学部									
機械システム工学科 (昼間主コース)	4	90	5	370	学士(工学)	1.00	平成5年度	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地	
機械システム工学科 (夜間主コース)	4	20	—	80	学士(工学)	1.05	平成5年度		
環境建設工学科	4	90	4	368	学士(工学)	1.01	平成5年度		
電気電子工学科 (昼間主コース)	4	80	5	330	学士(工学)	1.03	平成5年度		
電気電子工学科 (夜間主コース)	4	10	—	40	学士(工学)	1.05	平成5年度		
情報工学科	4	60	6	252	学士(工学)	1.03	平成5年度		
農学部									
亜熱帯地域農学科	4	35	—	70	学士(農学)	1.05	平成21年度	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地	
亜熱帯農林環境科学科	4	35	—	70	学士(農学)	1.17	平成21年度		
地域農業工学科	4	25	—	50	学士(農学)	1.04	平成21年度		
亜熱帯生物資源科学科	4	35	—	70	学士(農学)	1.02	平成21年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成22年5月1日現在の状況を記入してください。
- （専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）
- ・認可申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。
 - ・「定員超過率」には、過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を、学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）の記載は不要です。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「－」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<観光産業科学部 産業経営学科>

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授(学部長)	平敷 徹男	平成20年4月	マーケティング概論 Introduction to Marketing キャリア開発演習 戦略的マーケティング 広告論 国際マーケティング 経営学演習Ⅰ 経営学演習Ⅱ マーケティング特殊講義Ⅰ マーケティング特殊講義Ⅱ	専任	講師	辻 洋右	平成22年4月	マーケティング概論 Introduction to Marketing キャリア開発演習 戦略的マーケティング 広告論 国際マーケティング 経営学演習Ⅰ 経営学演習Ⅱ	教育課程の充実を図るため、専任教員を採用(22) 平成22年1月 教員審査済
専任	教授(学科長)	牛窪 潔	平成20年4月	経営学概論 Introduction to Management キャリア開発演習 マネジメント実践論 マネジメント応用論 中小企業経営論 中小企業発展論 経営学演習Ⅰ 経営学演習Ⅱ 総合演習						
専任	教授	志村 健一	平成20年4月	Introduction to Management 経営管理技法論 品質経営論 経営統計学基礎 応用経営統計学 情報教育演習 経営学演習Ⅰ 経営学演習Ⅱ						
専任	教授	與那原 建	平成20年4月	経営学概論 Introduction to Management キャリア開発演習 経営戦略論 競争戦略論 ベンチャー・ビジネス論 経営学演習Ⅰ 経営学演習Ⅱ 経営学特殊講義Ⅰ 経営学特殊講義Ⅱ						
専任	教授	上江洲 由正	平成20年4月	簿記原理Ⅰ Introduction to Accounting キャリア開発演習 簿記原理Ⅱ 会計学原理Ⅰ 会計学原理Ⅱ 環境会計論 経営学演習Ⅰ 経営学演習Ⅱ 商業科教育法 会計学特殊講義Ⅰ 会計学特殊講義Ⅱ						
専任	准教授	大角 玉樹	平成20年4月	Introduction to Management 情報教育演習 経営組織論 組織変革論 経営情報論 経営学演習Ⅰ 経営学演習Ⅱ	専任	教授	大角 玉樹	平成20年10月	Introduction to Management 情報教育演習 経営組織論 組織変革論 経営情報論 経営学演習Ⅰ 経営学演習Ⅱ	教授へ昇格(21) 平成20年7月 教員審査済

専任	准教授	知念 肇	平成20年4月	マーケティング概論 Introduction to Marketing キャリア開発演習 流通原論 物流論 日本流通論 国際流通論 サブライチエーション・マネジメント 経営学演習 I 経営学演習 II マーケティング特殊講義 I マーケティング特殊講義 II	専任	教授	知念 肇	平成20年10月	マーケティング概論 Introduction to Marketing キャリア開発演習 流通原論 物流論 日本流通論 国際流通論 サブライチエーション・マネジメント 経営学演習 I 経営学演習 II マーケティング特殊講義 I マーケティング特殊講義 II	教授へ昇格 (21) 平成20年 7月 教員審査済
専任	准教授	桑原 浩	平成20年4月	Introduction to Marketing キャリア開発演習 観光経営論 観光事業論 観光マーケティング論 ホスピタリティ・マーケティング 経営学演習 I 経営学演習 II						
専任	准教授	多賀 寿史	平成20年4月	簿記原理 I Introduction to Accounting 現代会計論 会計学原理 I 会計学原理 II 経営学演習 I 経営学演習 II						
					専任	准教授	桑原 和典	平成20年10月	ファイナンス実践論 ファイナンス市場論基礎 ファイナンス市場論応用 簿記原理 I キャリア開発演習 財務管理論 Introduction to Accounting 経営学演習 I 経営学演習 II	平成20年10月から、教育課程の充実を図るため、専任教員を採用 (21) 平成20年 7月 教員審査済
専任	講師	井川 浩輔	平成20年4月	経営学概論 Introduction to Management キャリア開発演習 人的資源管理論基礎 人的資源管理論応用 経営学演習 I 経営学演習 II						
専任	講師	宮国 薫子	平成20年4月	情報教育演習 観光情報論 まちづくり・地域興し論 経営学演習 I 経営学演習 II						
兼担	教授	伊波 美智子	平成20年4月	マーケティング概論 Introduction to Marketing ソーシャル・マーケティング 環境マーケティング サービス・マーケティング						
兼担	教授	兼本 円	平成20年4月	異文化コミュニケーション論						
兼担	准教授	福田 英昭	平成20年4月	職業指導 I						
兼任	講師	大城 満幸	平成20年4月	財務管理論 企業評価論	兼任	講師	大城 満幸	平成21年4月	企業評価論	専任教員を採用したことによる担当科目の変更 (21)
兼任	講師	仲尾次 洋子	平成20年4月	会計学原理 I 会計学原理 II	兼任	講師	鵜池 幸雄	平成20年4月	会計学原理 I 会計学原理 II	平成20年 3月仲尾次洋子講師就任辞退による担当者の変更 (20)

兼任	講師	金沢 信昭	平成20年4月	簿記の応用と展開						
兼任	講師	比嘉 孝明	平成20年4月	簿記原理II						
兼任	講師	大城 美樹雄	平成20年4月	人材開発育成論						
兼任	講師	金城 亮	平成20年4月	組織行動論						
兼任	講師	高嶺 華江	平成20年4月	消費者行動論 市場調査論						
兼任	講師	石川 幸子	平成20年4月	商業科教育法 職業指導 I						
兼任	講師	島袋 鉄男	平成20年4月	企業の社会的責任 とコンプライアンス 論基礎 企業の社会的責任 とコンプライアンス 論応用	兼任	講師	中原 俊明	平成21年10月	企業の社会的責任と コンプライアンス論 基礎 企業の社会的責任と コンプライアンス論 応用	就任辞退による担当者の変更(21) 就任辞退(21) 「後任未定」平成21年10月から、 兼任講師採用予定。
兼任	講師	仁神 仁志	平成20年4月	証券市場論 ファイナンス実践論 ファイナンス市場論基礎 ファイナンス市場論応用	兼任	講師	起田 克彦	平成21年4月	証券市場論	専任教員を採用したことによる担 当科目の変更(21) 平成20年3月仁神仁志講師就任辞 退による担当者の変更(20)
兼任	講師	山内 眞樹	平成20年4月	観光業界の経営分 析	兼任	講師	兼次 日出男	平成22年4月	観光業界の経営分析	平成22年3月山内眞樹講師就任辞 退による担当者の変更(22)
兼任	講師	親泊 政子	平成20年4月	インターンシップ サービス経営論	兼任	講師	親泊 政子	平成20年4月	サービス経営論	インターンシップの担当辞退によ る変更(22)
					兼任	講師	名嘉 由加利	平成22年4月	インターンシップ	親泊政子講師の担当辞退による変 更(22)
兼任	講師	嘉陽 宗一郎	平成20年4月	管理会計 会計監査論						
兼任	講師	金城 満珠男	平成20年4月	原価計算論基礎 原価計算論応用						
兼任	講師	親泊 元彦	平成20年4月	チャンネル管理論						
					兼任	講師	友利 勇栄	平成20年4月	簿記原理II	平成20年4月から教育課程の 充実を図るため、兼任教員を 追加(20)

(注) ・認可申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(表題)を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・年齢は、就任年度に関わりなく、「認可時の計画」には、開設時現在の満年齢を、「変更状況」には、平成22年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

また、「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「〇年〇月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

認可時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
5	4	2		11		6	3	3		12		
(5)	(4)	(2)	()	(11)	()	[1]	[Δ1]	[1]	[]	[1]	[]	

(注) ・「認可時の計画」には、設置認可時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成22年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置認可時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	教授	平敷 徹男	定年退職のため
2			
3			

(注) ・設置認可時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

平成22年3月31日付けの平敷徹男教授の定年退職に際して、平成21年度より平敷教授と同じ専攻分野の研究者を公募し、観光産業科学部教員選考委員会にて慎重な審査を行い、後任教員として辻洋右講師が採用候補者として推薦された。教授会での投票の結果、満場一致で辻洋右講師の採用が認められた。さらに、設置審での審査の結果、平敷教授の担当科目を辻洋右講師が担当することが認められた。なお、平敷教授の定年退職および辻講師の採用に関する学生への周知方法は、学科ホームページにて、平敷教授が担当する授業を通じて、指導教員による年次別懇談会を通じて、経営学演習を通じて、さらに新入生オリエンテーションの場を通じて、学生に必要情報を提供した。

(注) ・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (19年12月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (20年5月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (21年5月)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
 - ・ 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<観光産業科学部 産業経営学科>

(1) 設置計画変更事項等

認 可 時 の 計 画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

観光産業科学部教育委員会規程が平成20年4月1日の教授会で承認された。同規程第2条(審議事項)には、(1)教育課程の編成及び改善に関する事。 (2) 学部教育に係わる教育方法の改善(FD)に関する事。 (3) シラバスに関する事。 (4) 学生の授業評価に関する事。 (5) 共通教育等に係る授業科目の提供等に関する事。 (6) 教員免許等に関する事。 (7) その他教務に関し委員会が必要と認めるもの。以上7項目が本教育委員会の審議事項であり、観光産業科学部教育改善委員会及びFD委員会は、本教育委員会が兼務することにした。なお、平成21年度より学部教育委員会委員長に牛窪潔教授が就任することが教授会で決定した。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

全学教育委員会が、毎月第3火曜日に開催された。学部委員長は全学教育委員会での審議及び決定事項を学部を持ち帰り、学部教育委員会で審議の上、現場レベルへの推進管理を行った。なお、決定事項については学部内の全教員の理解と協力が必要なため、また合理化施策（会議の効率化）の一環として、学部教育委員会を学科会議及び教授会の議題として審議・決定することにした。教員の参加状況は良好で、詳細は学科会議議事録、教授会議事録に記載されているとおりである。

c 委員会の審議事項等

①登録上限単位数周知・徹底について。②GPA制度の導入と上限単位数上積み案策定及び周知・徹底について。③成績不服申立制度の策定と周知・徹底について。④学習達成度シートの作成による修学指導の改善施策の推進について。⑤学士力に関する勉強会の開催について。⑥学士力向上に向けた現行カリキュラムの現状分析について。⑦FDの推進と活動報告について

② 実施状況

(1) 単位の実質化

a 実施内容

①登録上限単位数については、キャップ制として一個学期に登録可能な上限単位数を20単位とし、学生への周知・徹底をはかった。②GPA制度の導入と上限単位数上積み案策定及び周知・徹底については、前学期のGPAが3.0以上の学生については成績優良者として上限6単位までの登録上積みを認めた。③成績不服申立制度については、全学教育委員会で策定した規程に基づき、学生への周知・徹底をはかった。

b 実施方法

①登録上限単位数のキャップ制、②GPA制度、③成績不服申立制度については、学部委員長が必要書類を作成し、学部教育委員会委員および年次指導教員によって学生への周知・指導を図った。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

全学教育委員会での決定事項については学部内の全教員の理解と協力が必要なため、また合理化施策（会議の効率化）の一環として、学部教育委員会を学科会議及び教授会の議題として取り上げたため、ほぼ全教員の参加の上で審議・決定することができた。なお単位の実質化を推進していく上で必要となる手続き書類や記入要領さらには学生への説明に必要な資料等は、学部教育委員長が作成し、メールを通じて学部教員全員への周知・徹底を図った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

キャップ制（登録上限単位数制度：20単位を上限とする制度）の遵守率は、全学部の中で観光産業科学部が最も高くなっている。GPA制度の導入により、学生の目標管理に対する意識が高くなり、毎学期ごとにGPAの数値目標を学生自らが設定し、目標達成に向けた積極的な取組を展開している。

（2）学生への修学指導の充実化

a 実施内容

④観光産業科学部独自の学習達成度シートを作成し、学生に対する修学指導の改善を図った。学習達成度シートは、学生自らが前学期の反省と今学期の目標を記入し、各指導教員がひとり一人の学生に直接指導を施し、その主旨を指導教員のコメント欄に記載する修学指導システムである。

b 実施方法

④学習達成度シートについては学部委員長がシートのフォーマットと記入要領を作成し、その主旨と記入方法を各教員に説明し、学生に対する修学指導の改善を図った。学習達成度シートは、目標項目として（1）取得単位数目標、（2）GPA目標値、（3）今学期の定性的目標、（4）目標達成施策、（5）注意を要する目標の5項目で、それぞれの項目を1.前学期の反省欄と、2.今学期の目標欄にを学生自らが記入する。学生は成績表、GPA値、登録カードを持参して、各指導教員が指定した日時と場所でマン・ツー・マンによる直接指導を受けられる修学指導システムである。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

全学教育委員会での決定事項については学部内の全教員の理解と協力が必要なため、また合理化施策（会議の効率化）の一環として、学部教育委員会を学科会議及び教授会の議題として取り上げたため、ほぼ全教員の参加の上で審議・決定することができた。なお学習達成度シートのフォーマット作成、指導教員制度の改善（産業経営学科は学生20人に1人の指導教員、観光科学科は学生30人に1人の指導教員を配置）、学生への説明資料の作成と本制度の周知・徹底、指導教員が記入する学生へのコメント標準の作成等は、学部教育委員長が担当・推進し学部教員全員への周知・徹底を図り修学指導の充実を図ることができた。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

産業経営学科で実施したアンケート調査、聞き取り調査結果によれば、単位の実質化と修学指導の充実により、学生の自主的な目標管理に対する意識が啓発されてきている。さらに、後述する「学士力向上」に向けたカリキュラムの見直しと改善に努めることにしている。

（3）学士力向上に向けた施策について

a 実施内容

設置計画書の教育内容の中にも、少人数のクラス規模によるキャリア教育、情報教育、英語教育、ゼミ教育の充実を掲げている。大学で学んだ知識や情報を如何に加工・応用し、社会のニーズに合うサービスを創造するために必要な学士力（社会人基礎力、就業力、コア・コンピテンシー）の養成に向けた教育サービスの充実に向けた取組を推進している。その一環として、⑤全学教育委員会の場で、学士力に関する講師を招聘し、勉強会と質疑応答が行われた。さらに、⑥学士力向上に向けた現状分析を行い、現時点で提供している授業科目が、学士力育成に繋がるかどうかを分析した。

b 実施方法

⑤ 学士力に関する勉強会については、平成22年1月22日にCSKシステムズ日本による、URGCC「琉球大学グローバル・シテズンシップ・カリキュラム」取組支援に関する説明会と質疑応答が行われた。平成22年3月24日には、愛媛大学教育企画室助教である城間祥子先生を招聘し、授業技法ワークショップ「様々な成績評価の方法」についての説明会と質疑応答が行われた。

⑥ 学士力向上に向けた現状分析では、産業経営学科が提供している79の専門科目を対象に、学士力を構成する7つの要素（1. 継続的努力、2. チームワーク力、3. 倫理・価値判断力、4. コミュニケーション力、5. 情報収集・活用力、6. 問題発見・解決力、7. 優れた専門能力）が、既存の授業科目（授業内容、授業方法、クラス規模、等）で習得可能かどうかの現状把握調査を行った。学士力向上に繋がる授業数は約3割、改善（授業内容、授業方法、クラス規模、等）を施せば学士力向上が見込める授業数が約3割、専門性を高めることに主眼を置いた授業数（会計学、統計学、等）が約4割という結果となった。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

本件に関しては、学科会議にて全教員に主旨と目的を説明し、現状把握調査の必要性の周知・徹底をまず図った。教育委員会委員長は調査票を作成・配布し、各教員が担当授業科目の授業の目的、授業内容、授業方法、クラス規模等を参考に学士力に繋がるかどうかを自己評価し、そのデータを整理し前述した結果に至った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

「学士力向上」に向けたカリキュラムの見直しと改善については、学部教育委員会、将来計画委員会、自己評価委員会を中心に具体的な目標と戦略を策定し、前述したFDによる公開授業（中小企業発展論、マネジメント応用論、経営情報論、まちづくり・地域興し論、その他）を企画・実施することにより、さらなる授業内容（学士力）の改善に努めることになっている。

（4）FDおよび教員のための研修会について

a 実施内容

⑦FDについては、主要科目（5科目）の授業評価アンケート（毎回の授業）結果を定量分析と定性分析により評価し、授業内容、授業方法、配布資料、等の改善を図った。産業経営学科の専門科目である中小企業経営論は全て英語で授業を行うため、英語のオリジナルテキストとレジュメを開発した。模擬企業面接教材については、企業別に求めている人材像を調査し、約20社の面接質問項目とコメントを作成した。新任教員の公開授業については、平成22年度後学期の開催を予定している。

b 実施方法

⑦FDについては、主要科目（Introduction to Management、経営学概論、キャリア開発演習、マネジメント実践論、マネジメント応用論）の授業評価アンケートを毎回の授業で実施し、定量分析項目として授業の理解度と満足度（5点：満足、4点：やや満足、3点：どちらともいえない、2点：やや不満足、1点：不満足、理解度も同様の5点反応尺度を用いた）を、定性分析項目として授業に対する要望、意見、問題点等を評価し、授業内容、授業方法、配布資料、等の改善を図った。平成21年度は、前学期に得られた解析結果に基づき、具体的対策案を策定し後学期の授業に反映させた。改善データとしては、経営学概論は、満足度が（前期：4.79）から（後期：4.77）へと僅かに下がったが、理解度は（前期：4.53）から（後期：4.55）へと上昇した。マネジメント実践論・応用論は、満足度が（前期：4.60）から（後期：4.73）へと上昇し、理解度も（前期：4.49）から（後期：4.69）へと上昇した。次に産業経営学科の専門科目である中小企業経営論は、担当教員が「世界的金融危機の背景とその影響」と題する日本語と英語のテキストを作成し、ネイティブスピーカーに校閲を依頼し、昨年12月に完成した。なお、この授業は15回、すべて英語よって授業を行っている。学部内の新任教員（英語の授業提供を条件に採用した教員3名）と協力して、テキストの内容改善に向けたFD（意見交換・情報交換）を開催し、英語のオリジナルテキストとレジュメを開発した。模擬企業面接教材については、特に沖縄県下の企業経営者および人事担当者から直接、各企業が求めている人材像を調査し、約20社の会社別面接質問項目とコメントを作成し、主にゼミを通じて実施を図った。新任教員の公開授業については今年の後学期開催を予定しているが、方法としては、参加者（教員）にFDチェックシートを配布し、約60分間の授業観察の上、各評価事項に対するコメントを記す。公開授業終了後、公開授業の担当教員との質疑応答を行う。具体的には各参加教員からのコメントに対する応答及び授業に対する具体的な改善施策に関するディスカッションを20分～30分程度行う。その後、公開授業の担当教員は、所定の報告書に所見を記し学部教育委員会に提出する予定である。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

本件に関しても、学科会議にて全教員に主旨と目的を説明し、FDおよび教員のための研修会の必要性の周知・徹底を図った。教育委員会委員長を中心に、草の根レベルでの補佐、支援、必要情報の提供を推し進め、教員間の協力体制を強化することができた。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

設置計画書に記載した授業内容と授業方法の更なる改善に向けて、これまでに主要科目として取り組んできた成果と実績を、他の専門科目にも反映させるべく、第2期中期目標・中期計画（教育）の具体的施策として、FDと教員のための研修会を充実させていく。

（5）シラバスの充実

a 実施内容

開講する授業科目については、各教員が責任をもってWEB上のシラバスに必要事項を記載する。なお、学科長および教育委員会委員長はシラバスの記載状況を確認し、未記載の教員に対して連絡および記載の指示を出す。学部長は最終確認を行い、シラバス100%の掲載率になるよう指導・管理する。(平成22年度のシラバス掲載率は100%を達成した)

b 実施方法

シラバスの充実施策としては、本年度よりシラバスのフォーマットが新しく改善された。学科長および学部教育委員長は、シラバス記載要領を各教員に配布し、記載要領に準じて必要事項を入力する指導を施した。特に、成績評価と単位認定基準の明確化、さには15回の授業内容の記載を義務づけ、定期試験は15回の授業計画に含めないことを周知・徹底した。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

平成21年度および平成22年度の開講授業科目のシラバス掲載率は100%であった。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

シラバスの公開義務により、計画的かつ体系的な授業の進行が期待できる。評価については「授業評価アンケート」のシラバスに関する評価項目の結果より、次学期終了時に判断できる。

(6) 資格取得支援講座の提供

a 実施内容

資格取得を目指す学生への支援施策として、平成20年度後学期より、公認会計士、税理士、日商簿記1級、以上3資格に関する支援講座を開始した。資格取得講座を提供している専門学校と提携し、学内に専用の学習室を設け、無線LANによるWEB講座を受講出来る環境を整えた。学生へのサポートは、主に会計学領域の教員が学生の指導にあたり、資格取得に向けた効果的かつ効率的な指導技術の啓発に取り組んでいく予定である。

b 実施方法

資格取得支援講座に参加するためには、年に2回開催する選抜試験に合格しなければならない。試験内容は日商簿記2級レベルの問題を出題し、70点以上を合格としている。選抜試験の合格者はWEBにより配信される授業を、自宅もしくは専用の学習室を利用して、計画的な学習を行っている。会計学領域の教員は、学生の要請に応じて、質問や相談に応じている。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

本講座に関する情報提供、今後の課題、等に関する議論は、学科内会議で行っている。

d 実施結果をふまえた授業改善への取組状況

これまでに資格を取得した学生は日商簿記1級合格者が1名である。今後は定期的な模擬試験等を実施して、経過目標の達成度合い等を確認しながら、より適切かつ効果的な指導方法を見出していく予定である。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

(別紙のとおり)

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・平成22年5月頃公表予定

平成22年度中(学年進行完成年度)に観光産業科学部の状況(年次計画終了時の学位取得状況等を含めて)を総括する。

そのうえで、認証評価に向けた全学的な評価スケジュールと連動した自己点検・評価を平成22年度に実施する。その公表については、認証評価の評価結果後に行う予定である。

b 公表方法

自己点検・評価結果について外部評価委員会による客観的な評価を加え、総合的な結果としての評価報告書を取りまとめ、ホームページ及び冊子等により国内外に向けて公表する予定である。

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成22年度に大学評価・学位授与機構を第三者評価機関として、認証評価を受ける。

(4) 情報提供に関する事項

① 設置認可申請書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (19年 4月 日)

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)

d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ_info/general/houjin_siryou/setti_keikaku/)

② 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (22年 9月 日)

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)

d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ_info/general/houjin_siryou/setti_keikaku/)

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

観光産業科学部産業経営学科は、琉球大学が目指す「地域特性と国際性を併せ持つ大学」の基本理念に準じ、以下のような人材育成に関する基本目標を掲げている。①理論と実践の融合を目指し真実を追究する人材。②倫理観と豊かな人間性を併せ持つ人材。③高度な専門性と幅広い教養を併せ持ち総合的判断力を有する人材。④国際感覚と外国語運用能力を併せ持ち国際社会で活躍できる人材。⑤地域社会の発展に寄与しうる実践的マネジメント力を有する人材。以上5項目が当学科の基本目標である。

上記の基本理念および基本目標を達成するための実施体制として、観光産業科学部では、「学部教育委員会」の中に「FD委員会」を設置し、教育内容および教育方法の質的な改善に向けた取り組みを行っている。産業経営学科では、平成20年度に、合計6回の公開授業および教材研究に関するFDを実施した。公開授業については、新設科目、英語による授業、IT機材を用いた授業方法の改善、新任教員の研修、等を主な対象としている。また教材研究については、学生の出口管理の充実を目的に「キャリア開発演習」の授業にて使用する教材およびコンテンツ開発を行った。平成21年度も引き続き、計画的にFDを実施していく予定である。さらに観光産業科学部では「自己評価委員会」を設置し、教育・研究活動、教員組織および管理運営活動を点検し、改善に向けた取り組みを行っている。特に産業経営学科としては、シラバスの100パーセント記載の徹底、学生に対する履修モデルの作成と履修指導の充実、授業評価アンケート調査報告書にもとづく各教員の授業改善に向けた取り組み、等を点検・支援している。

このような組織的支援体制にもとづき、上述した5つの基本目標の達成に向けて取り組んでいるが、産業経営学科の特徴を示す授業科目の内容と、それぞれの基本目標との関係は以下のとおりである。

まず「①理論と実践の融合を目指し真実を追究する人材」については、各科目の基本方針であり、それぞれの授業の中でケース・スタディやIT教材を用いた実践的かつ応用的なコンテンツの充実を図っている。その際も経営学としての理論的根拠に関する指導と実践的・応用的な実学指導とのバランスを念頭に置いている。

次に「②倫理観と豊かな人間性を併せ持つ人材」については、共通教育と専門教育との整合性の見地から履修モデルを作成し、学生に対するきめ細かい履修指導を実施している。さらに2年次後期には、プロフェッショナル人材として活躍する上で求められる資質と能力を学ぶための「キャリア開発演習」を必修科目として提供している。本授業を通じて自身の職業観をひとつひとつ構築すると同時に、社会人に求められる価値観や倫理観の習得に向けた指導を試みている。

三番目の「③高度な専門性と幅広い教養を併せ持ち総合的判断力を有する人材」については、主に3年次と4年次の必修科目である経営学演習をつうじて、学生の興味と関心を軸に専門的な教育の充実を図ると同時に、総合的判断力につうじる5つのコンピテンシー(感性、問題発見能力、仮説-検証能力、行動力、論理的表現力)の習得に向けた指導を推進している。

四番目の「④国際感覚と外国語運用能力を併せ持ち国際社会で活躍できる人材」については、共通教育の外国語教育をベースに、2年次より当学科では専門科目として、英語による授業を選択必修科目として提供している。さらに、3年次以降においても、専門科目を英語で学習する授業(観光経営に関する授業、中小企業経営論、中小企業発展論、等)を増やし、学生の語学力向上をバックアップする環境を整えている。

最後の「⑤地域社会の発展に寄与しうる実践的マネジメント力を有する人材」については、高度な情報教育(情報教育演習、経営情報論、観光情報論)、商業高校の教員免許取得に必要な授業内容の充実(総合演習、職業指導、商業科教育法)、インターンシップの事前指導の充実と受け入れ先企業の開拓、さらには資格取得支援講座の実施と充実、等の施策により、即戦力を有する人材の育成に取り組んでいる。